

神経薬理学分野

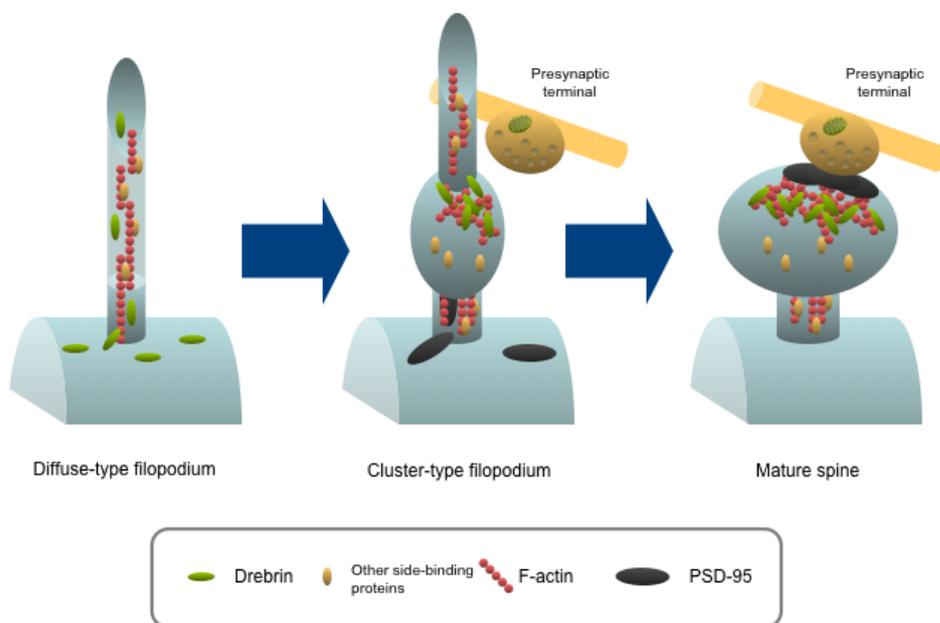
シナプスは脳の高次機能を担う最小機能単位である。当分野ではアクチン細胞骨格系蛋白によるシナプスの形態と機能の制御、およびその病態を、生化学的、分子生物学的、細胞生物学的、電気生理学的、および行動薬理学的手法を用いて多角的に解析している。これらの研究を通じて、シナプスの脆弱性および機能不全、さらには神経細胞死の分子機序を解明し、脳機能の解明を目指すとともに、神経何秒、精神疾患の診断と治療法の開発を目指している。

【キーワード】

樹状突起スパイン、アクチン細胞骨格、ドレブリン、シナプス可塑性、シナプス脆弱性

【研究テーマ】

(1) 発生過程における樹状突起スパインの形態形成に関する研究



(2) シナプス伝達機能、可塑性における細胞骨格の役割に関する研究

(3) シナプス脆弱性および機能不全が引き起こす脳の高次機能障害（アルツハイマー病、躁鬱病、分裂病など）に関する研究

具体的には、初代培養神経細胞や遺伝子ノックアウト動物を、分子生物学、細胞生物学、電気生理学、行動薬理学などの技術を用いて、多角的に研究している。

【連絡先】

白尾 智明

群馬大学大学院医学研究科・神経薬理学

Tel: (027) 220-8052; Fax:(027) 220-8053

Email: tshirao@med.gunma-u.ac.jp